

第8回鋼構造シンポジウム「鉄骨製作の合理化を図る柱梁接合部について」

主催：日本建築学会中国支部,日本鉄鋼連盟

共催：日本建築構造技術者協会中国支部,協同組合広島県鉄構工業会

会場：広島工業大学広島校舎（広島市中区中島町 5-7）

内容：鉄骨製作の合理化を図る柱梁接合部構成に関する研究事例の紹介

講師：田中剛教授（神戸大学）

日時：12月13日（土）15:00~17:00

定員/参加費：80名/無料

対象：本会・共催団体会員,建築技術者,大学院生,大学生

問合せ：広島工業大学 建築工学科

清水齊 h.shimizu.tn@it-hiroshima.ac.jp

概要

鋼構造建物では、接合部の性能が、建物全体の耐震構造性能に大きな影響を及ぼす。今回は、その接合部に着目し、近年の研究動向や、設計および鉄骨製作に関する最新の話題を取り上げる。例えば、角形鋼管柱を用いた中低層鉄骨造建物において、下階と上階とで柱幅を変化させる場合、柱梁接合部にはテーパ形状の既成管やビルトボックスが用いられるが、このような柱梁接合部をテーパ形状とはせず、ダイアフラムの面外曲げ耐力や剛性を評価する方法等について講演を行う。

最後に会場から講演内容についての質疑を行う。

本シンポジウムは、鉄骨製作に関する話題提供であり、より合理的な鋼構造設計や鋼構造建築物の製作に繋げていただくために企画されたものである。是非とも、構造設計者、鋼構造製作技術者、および大学生・院生の積極的な参加を期待する。



広島工業大学広島校舎
(広島市中区中島町 5-7)
082-249-1251